平成 28 年度　市川市立図書館評価報告書

平成 29 年 11 月

１．趣旨

この報告書は、「図書館法」（昭和 25 年法律第 118 号）第７条の３、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成 24 年文部科学省告示第 172 号）、「市川市立図書館の設置及び管理に関する条例施行規則」（平成 21 年教育委員会規則第６号）第１条の２及び「市川市中央図書館の管理に関する規則」（平成６年教育委員会規則第９号）第２条に基づき、平成 28 年度の市川市立図書館の運営状況について評価・分析を行いサービス向上に資するものである。

２．評価内容

「市川市立図書館運営基本計画」第３章 実施計画編（平成 27 年度～平成 29 年度）の具体的な施策に沿って行った取り組み内容と、目標値等の達成度に基づき、平成 28 年度の市川市立図書館の評価を行った。

３．評価の基準について

市川市立図書館の「7 つの施策の方向」の各項目ついて、取り組み内容と目標値の達成度を総合してＡ～Ｄの４段階評価を行った。これに基づき、総合結果として「3 つの柱」についての取り組みを４段階評価で表した。(3 つの柱と 7 つの施策については市川市立図書館運営基本計画 p.7 を参照)

実施内容	評価
十分達成できた。　（目標どおり取り組みを実施し、目標を上回る成果があった。）	A
概ね達成できた。　（目標どおり取り組みを実施し、一定の成果をあげた。）	B
やや不十分だった。（実施したが、十分な成果をあげることができなかった。）	C
不十分だった。　（実施できていない。課題の整理、計画の見直しが必要である。）	D

４．自己評価結果

平成 28 年度は、「市川市立図書館運営基本計画」の３つの柱のうち「子どもの成長をサポートする図書館」「地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館」の２つについては、全ての項目で目標値を超えることができＡ評価となった。特に、関係部署との連携によるイベントの拡大実施に努め、利用者アンケートでは高い満足度が示された。「情報拠点として市民の学びを支える図書館」については、関連施設との連携を強化し図書館サービスの充実に努めたが、利用登録者数が目標値に達しなかったためＢ評価となった。

全体としては、7 つの施策の方向のうち６つがＡ評価であったため、28 年度の目標はほぼ達成でき、一定の成果をあげたといえる。

５．平成 28 年度市川市立図書館評価に対する外部有職者からの意見　…詳細は別紙１

外部有識者２名（図書館情報学）から、平成 28 年度の市川市立図書館評価についてご意見をいただき、自己評価は概ね適切であると認められた。また、実施結果や評価方法に対していただいた課題やアドバイスについては、今後の図書館運営に活かしていく。

６．e-モニターによるリーディングプラン(平成 28 年度結果)　…詳細は別紙２

市川市立図書館運営基本計画の策定時に、市民モニターが重要と考える具体的施策について、e-モニターによるアンケートを行い、選ばれた施策を「e-モニターによるリーディングプラン」とした。これらの施策について、平成 28 年度の実施結果をまとめた。

平成 28 年度 「市川市立図書館運営基本計画」に基づく図書館評価結果

総合結果

1. 情報拠点として市民の学びを支える図書館

評　価	□A〔十分達成できた〕	■B〔概ね達成できた〕	□C〔やや不十分だった〕	□D〔不十分だった〕

利用しやすい情報環境の整備を進め、生涯学習機会の拡充に努めるなど、大部分の項目で目標を達成した。大野公民館図書室の蔵書を市立図書館の蔵書管理と一元化したことで、北部地域の利便性の向上を図ることができた。行徳図書館では IC タグの利用により、効果的に蔵書管理が行われるようになった。関連施設との連携によるサービスは、近隣商業施設との共催イベントへの参加や乳幼児利用券のPRなど、例年以上に活発に行った。登録者の拡大は継続的な課題であるため、類縁機関との連携の強化やイベントなどを活かして進めていく必要がある。

2. 子どもの成長をサポートする図書館

評　価	■A〔十分達成できた〕	□B〔概ね達成できた〕	□C〔やや不十分だった〕	□D〔不十分だった〕

関連施設との新規共催イベントの実施など、全館で児童に対してのサービスを積極的に展開し、全項目で目標を達成した。ヤングアダルトサービスや学校図書館支援事業においても、本の紹介や素話などの面で児童図書館員の専門性を活かした活動を展開した。今後はこれまでの事業の見直しを行いながら、中学校への出張サービスなど新たな取り組みも視野に入れ、子どもの読書に関する環境整備に努め、図書館に親しむ機会を増やし利用の拡大を進めていく。

3. 地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

評　価	■A〔十分達成できた〕	□B〔概ね達成できた〕	□C〔やや不十分だった〕	□D〔不十分だった〕

地域行政資料の収集、資料の電子化や図書館ホームページからの情報発信など、様々な媒体によるサービスの充実に努め、全項目で目標を達成した。関連各部署との連携の幅が拡がり、多様な展示を行うなど、市民に市川の情報や魅力を伝えていく環境整備が進み、刊行物の販売等、行政の情報拠点としての役割も定着してきた。今後は図書館が収集した情報が地域の課題解決につながるよう、効果的な発信や内容の充実を図っていく。また、地域行政資料の劣化対策と保存のため、資料の電子化を積極的に進め、市民が広く利用できるよう努めていく。

28 年度の取り組み内容

一つめの柱　　情報拠点として市民の学びを支える図書館

施策の方向　1－(1)「様々な市民の学習要求に応えられる、蔵書の収集と維持」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①蔵書の維持と更新	・新規資料の受入れと劣化資料の買い替え	受入れ冊数 50,000冊	受入れ冊数 45,125冊	A
②利用に応じた様々な形態の資料の充実	・利用しやすい電子資料等の収集についての調査及び導入の検討	調査・検討 の実施	調査・検討 の実施	
	・障害者向け資料の充実	受入れ点数 200点	受入れ点数 286点	
③効果的な蔵書管理	・行徳図書館の図書へのICタグの貼付と、全館的なICタグによる蔵書管理についての検討	ICタグによる 管理計画の策定	計画の策定と 一部実施	
④資料保存のための書庫の確保	・中央図書館の書庫への可動式集密書架の計画的な設置	設置	設置（4台）	

実績と評価　大野公民館図書室の蔵書管理を、ブラウン式からバーコード式に移行し、市立図書館と一元化した。寄贈資料の大半を大野公民館図書室の蔵書に利用したことで、市立図書館内の資料更新数は目標値に達しなかったものの、当該図書室の貸出は大幅に伸び、蔵書が有効に利用された。行徳図書館は 7 月から IC タグでの蔵書管理を開始したが、それに伴う自動貸出機の利用数は目標を大きく上回る結果となり、効果的な蔵書管理が進んだ。また、資料の電子化については地域資料や音楽配信サービスについて検討を始めた。

課 題　資料の収集については、限られた予算を有効に執行し、的確な資料選定を行っていく。また、従来の紙媒体による情報の収集・提供・保存だけでなく、新しい媒体や方法による蔵書の構築についても検討する必要がある。資料管理面では、IC 機能の全館での活用が課題である。

方向性　図書館全体で市民の学びを支えられるよう、引き続き各図書館の役割やニーズを意識した資料の選定を行うとともに、中央図書館が地域図書館の蔵書構成面での支援を行っていく。効果的に蔵書を管理するため、全館的な IC 化を計画的に進めていくほか、媒体に応じた資料の保存・活用の方策を検討・実施していく。

施策の方向　1－(2)「図書館機能を活用した、生涯学習機会の提供と充実」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①レファレンスサービスの充実	・レファレンスツールおよび事例集の作成	発行	発行(19回)	A
	・市内外の図書館等との連携の強化 （レファレンス協同データベースへの事例提供）	実施	実施(207点)	
	・レファレンスツールとしてのデータベースの拡充等、市民の学習要求や調査研究に応える環境の整備	実施	実施	
②利用しやすい情報環境の整備	・利便性向上のための、ICT関連機器の更新及び導入計画の策定	機器設置(行徳)	機器設置(行徳)	
	・図書館ホームページのお知らせ機能やデータベース等の充実	拡大実施	実施	
③生涯学習機会の拡充	・図書館サービスの PR と、利用の促進	実施	実施	
	・イベントの開催や、地域イベントへの参加協力	実施	実施	

実績と評価

中央図書館での国立国会図書館デジタル化資料送信サービスは、閲覧・複写サービスともに昨年度より利用が増え定着してきている。同サービスの拡大のため、2月に国立国会図書館職員による行徳図書館職員への研修を実施し、調査研究のための環境整備を進めた。ICT関連機器の導入については、29 年度に中央図書館に IC タグを貼付するための予算立てと、機器導入の検討を行った。

図書館の利用促進については、子育て世代向けの乳幼児利用券を新たに作成し、保健センターでの4ヵ月あかちゃん講座の際に、継続的に登録の PR を行った。ほかにも、自動車図書館の展示や、近隣の商業施設等との共催イベント「ファミリーフェスタ」に参加し、館外で図書館サービスの PR を展開した。また、市内在住の歴史研究家を招いて主催講座を開催し、生涯学習機会の提供に努めた。

課 題

効果的なレファレンスツールを作成・準備し、中央図書館だけでなく地域館等でのレファレンスにも的確に回答できるよう、図書館のネットワーク機能を充実させるとともに、利便性の向上のため、ICT関連機器の導入を進めいく必要がある。また、図書館未利用者の来館に繋がるようなイベントの企画と積極的な広報活動が課題である。

方向性

国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを行徳図書館にも導入し、行徳地域の利便性の向上を図る。また、調べ方案内等はホームページへ掲載していく。図書館利用を促進するため、イベントの開催や広報活動を積極的に行っていく。

施策の方向　1－(3)「関連機関とのネットワークの充実と、質の高いサービスの提供」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①関連機関との連携による、各地域における図書館サービスの充実	・関連施設との連携による図書館サービスの拡充と利用の拡大 （図書館利用登録者数の拡大）	前年度比増 （前年度124,353人）	117,210人	B
②大学図書館との連携と利用の促進	・市民の大学図書館利用のための紹介状の発行	実施	実施(158件)	
	・市内大学図書館と市立図書館の各種行事等の相互PRと利用の促進	実施	実施	
	・大学生の図書館実習、インターンシップ等の受入れ	実施	実施(6名)	
③ボランティアとの連携強化	・図書館友の会と連携した行事等の実施とボランティア活動の支援	実施	実施(6回)	
	・障害者サービス関連のボランティアと連携した、障害者向け資料の作製と収集	実施	実施(35タイトル)	

実績と評価

大野公民館図書室の蔵書を刷新しバーコード化したことで、図書館の蔵書管理と一元化した貸出・返却、蔵書検索、予約等が可能となり、北部地域住民の利便性の向上につながった。また、大野公民館図書室での図書館利用券の新規登録受付を開始したほか、近隣の商業施設等との共催イベントでは「出張図書館」として利用登録の呼びかけを行い、図書館サービスの拡充に努めた。しかし一方では、図書館利用機能付住基カードの期限切れや返納が進んだことで統計上の登録者が減少し、登録者数については目標値の達成までには至らなかった。

市内大学図書館との連携では、大学図書館で行われている見学ツアーや特集展示等について、市立図書館で市民へ継続的にPRを行っていることが相互の利用促進につながっている。また、大学生の図書館実習やインターンシップの受入れも積極的に行い、大学とのネットワークを強化し充実させることができた。

課 題

利用登録者数については、新規利用者の獲得が喫緊の課題である。また、図書館が未設置である、市北部地域へのサービス拡充を目的として、北東部の大野公民館図書室に続いて、北西部における図書館関連施設の活用を検討する必要がある。

方向性

大学や関連施設との連携を強化し、図書館サービスの拡充と北部地域をはじめとする地域住民の利便性の向上を目指す。また、ボランティアとの連絡を密にし、質の高い図書館サービスの提供に努めていく。

二つめの柱　子どもの成長をサポートする図書館

施策の方向　2－(1)「発達に応じた豊かな読書のための環境整備」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①児童・青少年資料の充実	・子どもの発達段階に応じて豊かな読書体験ができるような資料の収集と更新	（受入れ冊数）9,000冊	（受入れ冊数）9,009冊	A
②行事の実施と情報の発信	・子どもの読書活動の推進のための行事の実施と情報の発信	各種行事の拡大実施	各種行事の拡大実施	
③レファレンス・読書相談の実施	・調べ物に役立つ資料の充実や探し方についての案内の実施	実施	実施	
	・大人に対しての子どもの本についての読書相談等の実施	実施	実施	
④ヤングアダルトサービスの実施	・中学・高校生のもつ課題解決(学習、生活、進路等)を支援するための資料の提供	実施	実施	
	・図書館と中学・高校生を結びつける行事の実施や刊行物の発行	実施	実施（10回）	

実績と評価

子どもの読書のための環境整備に積極的に取り組んだ。資料の充実については、乳幼児向け絵本の買い替えを重点的に行った。イベントについては、中央図書館で毎年好評の「ぬいぐるみおとまり会」等を実施したほか、他施設との共催イベントも多数行った。イベント終了後はアンケートを実施し、参加者の意見のフィードバックに努めている。地域館においても、「生きている虫がやってくる」や本の「ふくぶくろ」、「本の世界に入ってみよう」など、本や図書館への興味を引き出すイベントを実施した。また、ブックリスト「本のぽけっと29号」を発行し、学校を通じ市内小学生に配布した結果、掲載した図書の利用が増えた。

子どもの本についての相談は、大人からの相談も含め日常的に対応しているが、新しい企画として商業施設との共催イベント「ファミリーフェスタ」で絵本の選び方講座を開設したところ、多数質問が寄せられ好評だった。

ヤングアダルトサービスとしては、中学・高校生の課題解決支援の一環として、「世界とつながる」「お金」などの展示を実施し、連動して「ヤングアダルト通信」を発行した。また、「YA ルームデコClub」などの参加型イベントや、学校を通じて募集した本の POP 等の作品の館内展示など、図書館に親しめる企画の実施に力を入れた。

課 題

読み聞かせの会の参加者が低年齢化しているため、赤ちゃん向けプログラムを検討する必要がある。また、ヤングアダルト世代が図書館に足を運ぶきっかけとなる新しい企画を計画し、PRしていくことが課題である。

方向性

展示については、各年齢層にあったものを関連機関と連携しながら積極的に実施し、子どもたちの本への興味を引き出していく。読み聞かせの会では、赤ちゃん向けにわらべうたを主としたプログラムを実施する。ヤングアダルト向けのイベントについては、中学・高校生からアイディアを募集し今後の企画に活かしていく。

施策の方向　2－(2)「公共図書館と学校等との連携の強化」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①出張おはなし会・学級招待の実施	・「出張おはなし会」「学級招待」の対象学年の拡大とプログラムの充実	拡大充実	拡大充実	A
②調べ学習及び読書環境向上のためのサポート	・教育センターが所管する「学校図書館支援センター事業」への参加と協力	参加・協力	参加・協力（資料依頼件数528件）	
	・学校図書館向け貸出資料の更新	実施	実施	
	・こども館等と連携した児童サービスの拡大	実施	実施	

実績と評価

出張おはなし会及び学級招待については依頼数が 56 回と前年度より倍増した。特に、出張おはなし会では、児童図書館員の専門性を活かした素話や科学遊びを取り入れたプログラムを実施したところ、子どもたちの反応も良く、幼稚園や小学校の先生方からも好評だった。また、今まで依頼のなかった幼稚園や小学校からの申し込みも増加し、目標以上の成果を上げることができた。

前年度に続き、「公共図書館の利用を学ぶ」等の校外学習として図書館を活用してもらい、職場体験学習（中学生）の参加者も増加した。学校での調べ学習に関しては、依頼内容も複雑化してきたが、公共図書館の幅広い蔵書を活かした資料提供ができた。また、今年度は環境政策課と連携した「緑のカーテンをつくろう」など他部署との連携イベント企画を積極的に行い、調べ学習に繋がるような、親子で楽しめるイベントを実施した。

課 題

出張おはなし会や学級招待の際に、図書館に興味を持ってもらう工夫をし、図書館への来館、登録につなげることが課題である。また、調べ学習については、多様化する要求に応えられる資料の収集が課題である。

方向性

出張おはなし会や学級招待に参加した子どもたちが、本や図書館に興味を持ち、図書館利用につながるように工夫をしていく。また、中学校への出張サービス等を検討する。引き続き調べ学習に対応していくため、最新の情報が提供できるよう、資料の更新を進めるとともに、蔵書の十分な活用を図る。

三つめの柱　地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

施策の方向　3－(1)「市川市の歴史・文化の保存と継承」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①地域資料の収集と提供	・地域行政資料の収集と整理	（蔵書冊数）53,000冊	（蔵書冊数）55,275冊	A
②地域資料の保存	・著作権保護期間満了の資料の電子化	実施	実施	
③地域情報の積極的な発信	・図書館ホームページの地域資料に関するコンテンツの追加及び更新	実施	実施	

実績と評価

地域行政資料は、寄贈を中心に、新刊書から古書まで積極的に収集を行い、蔵書冊数の目標値に達した。また、中央図書館の利用者アンケートでは、「地域情報資料の充実」についての満足度が、92.2%と非常に高い数値となっている。

地域行政資料を保存していくため、著作権保護期間が満了した「市川市全地図」(1954)と、「手児奈マーチ」(楽譜)を電子化し、館内のPCで公開した。ホームページからの情報発信としては、「市川ゆかりの著作家」に平成28 年に亡くなられた「井上洋介」「葉山修平」のページを追加した。

中央図書館では「京成電鉄と市川市」の展示をディスプレイケースを使って行い、書庫に保存している貴重な資料を公開した。また、「三番瀬で会いましょう」のパネル展示を行ったほか、リーフレット「市川に関する浮世絵」(市川市ってどんな街3)を発行、配布するなど、地域情報の積極的な発信に努めた。

課 題

地域行政資料を永く保存していくための十分なスペースの確保と資料の劣化対策を計画的に進めることが課題となっている。また、収集保存している資料について、広く市民が利用できる環境を整備する必要がある。

方向性

地域行政資料の積極的な収集と受入れに努め、引き続き資料の充実を図る。資料の劣化対策として、著作権保護期間満了の資料の電子化を計画的に進めていく。地域行政資料を広く活用できるように、地域情報データベースを随時更新しコンテンツの充実を図るとともに、ホームページ等を利用した情報発信を行っていく。

施策の方向　3－(2)「行政の情報拠点としての役割」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①行政情報の市民への提供	・行政各部署や関連団体と連携した行事や展示等の実施	拡大実施（前年度20回）	拡大実施（31回）	A
	・入手しにくい市の刊行物等の販売	実施	実施	
②行政各課への情報発信	・図書館で利用できるデータベース等、レファレンスツール情報の市の行政各課への発信	実施	実施	

実績と評価

行政各部署や関連団体と連携した展示は、新たに、まちなみ景観整備課、千葉県立現代産業科学館、読書推進運動協議会等と実施した。その他の部署とも継続した連携が実現できているほか、他課が生涯学習センターで講演会を開催する際には、関連資料の展示依頼も増え、連携の幅も拡がった。考古博物館主催の講演会開催時には、普段見ることのできない貴重な博物館所蔵品を図書館資料とあわせて展示し、多くの人に関心を持ってもらうことができた。歴史博物館出張展示「市川市域の空襲について」では、熱心にメモを取る利用者や、関連書の問合せがあった。また、市の刊行物等の販売や、市民向け冊子類の配布の場所としても定着しつつある。

行政各課へ向けた情報発信としては、各部署での政策研究等に活かせるよう、調べ方案内やレファレンス事例を発信した。

課 題

図書館が行政の情報拠点として認識され、活発に利用されるために、市民のニーズにあった地域行政情報の発信を分かりやすく行うことが課題である。また、行政各部署へ向けて、図書館サービスについての定期的なPRを行い、更に連携を強化していく必要がある。

方向性

関連団体等と連携して、市川への理解と愛着が深まるような魅力的な展示やイベントを企画するほか、市民生活に役立つ行政情報を市民に積極的に提供していく。また、図書館の活用法を行政各部署にPRし、地域の課題解決やまちづくりに活かせるよう情報発信していく。

平成28年度　市川市立図書館評価に対する外部有識者からの意見　（別紙1）

３つの柱に対する、図書館の自己評価、今後の課題等について、外部有識者（図書館情報学）２名から意見をいただいた。

１．情報拠点として市民の学びを支える図書館

・B評価となっていますが、A評価でも差し支えないと思います。施策の方向1－(3)「関連機関とのネットワークの充実と、質の高いサービスの提供」で、利用登録者数が前年度比の6％弱の減となった結果を受けたもののようですが、住基カードの期限切れ等による減少だとすれば、それほど問題にしなくてよいように考えます。重視すべきは、累積された名目の登録者数よりも、1年間に蔵書を借りたり、部屋や機器を利用したりした有効登録者数ではないでしょうか。指標の設定を変更する必要があるように思います。引き続き、北部地域の利便性の向上など、サービスの更なる進展を望んでいます。

・公民館図書室の蔵書の一元管理の効果がすぐに表れていることから、どこからでもデータが利用できること（知的アクセス）と「身近な場所」にサービスポイントがあること（物理的アクセス）の両者が重要であることがあらためて明確になった。ここまでの取り組みは評価されるべきである。一方、北西部における物理的アクセスの拡充に向けた検討が進められることを期待したい。また、行徳図書館のICタグ化もすぐに効果を発揮していることを踏まえ、すでに予算化されている中央館のIC タグ化がスムーズに進むことを期待したい。乳幼児利用券の作成など、子育て世代に対応した取り組みは、利用者のニーズを踏まえた特筆すべきものであると考えられる。課題となっている図書館未利用者への働きかけ（新規利用者の獲得）についても、市民のあいだに、図書館（資料・情報）利用に対してどのようなニーズがあるかを丁寧に把握・分析していくことによって、乳幼児利用券のような新たな試みを生み出していけば、自然と達成できていくという側面があると思われる。図書館（資料・情報）の利用は、市民にとっては目的ではなく、あくまで手段である。市民のあいだにある（しばしば自覚されていない）資料・情報を必要とする場面（動機）を積極的に探っていくことがニーズ（いわゆる潜在的ニーズ）の把握につながることを、蛇足ながら、補記しておきたい。市川の強みであるレファレンスサービスの質的向上が、中央館のみならず、地域館等においても、さらにはかられていくことは歓迎したい。サービス向上が「口コミ」で新規来館者を増やすことにつながる可能性も少なくないと思われる。

２．子どもの成長をサポートする図書館

・A評価で問題ありません。子どもへのサービスは全国的にも傑出しており、とくに行事の実施や学校等との連携は、目に見える形での多彩なサービスが展開されています。ヤングアダルトに対し、ビブリオバトルなどの参加型イベントを開催するとか、児童に対し、出張おはなし会や学級招待でブックトークを実施するとか、子どもたちを読書へいざなう新しい試みに期待しています。

・商業施設との共催や市他部署との連携によるイベントなど、図書館外とのネットワークをつくり、活かしている点は、図書館に足を運ぶ子どもばかりが図書館のサービス対象なのではなく、むしろ、図書館に足をあまり運ばない子どもたちにうまく働きかけて、図書館（資料・情報）に対する認識・理解の向上をはかる機会となるという意味で、大いに評価されるべきである。同じ意味で、図書館開催のイベント告知やブックリストの配布などを、すでに実施されているとおり、学校を通じて行うことは効果があると考えられるが、今後は、学校以外の多様なルートも徐々に開拓していくことを期待したい。子どもや親子が立ち寄る場所、目にするところは市内にいろいろあると思われる。読書から遠ざかる年代とされる中高生に向けた取り組みを強化している点も大いに評価されるべきである。とくに課題解決支援の一環として中高生にとって興味を持つテーマを設定した展示など、ニーズを踏まえたものとなっていることが推測できる。中高生にも多様なニーズがある。生の声を聞いてニーズをつかんでいくという意味でも、中高生自身が企画・運営に積極的に加わっていくような取り組みも検討されていくとよいのではないだろうか。

３．地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

・A評価で問題ありません。地域資料は公立図書館の根幹をなすもので、その充実ぶりは、利用者アンケートの満足度 92.2％に示されているとおりです。引き続き、地域資料の電子化やインターネットでの情報発信を進めるとともに、行政各部署との連携を通して行政情報の拠点として機能するよう願っています。

・利用者アンケートで地域情報資料の充実が極めて高い満足度を得ている点は特筆すべきである。図書館の取り組みが適切に進められている証左である。デジタル化・ネットワーク化がさらに進み、グローバルにさまざまな情報が入手できるようになれば、公共図書館は、今後、いっそう地域性を要求されていくと思われる。市川の歴史・文化を保存・継承していくために、資料・情報の面で図書館の役割は極めて大きい。地域資料のデジタル化・公開は有効な取り組みであることから、さらに推進していくことを期待したい。その際、市内関係機関や地域住民などが持つ資料・情報を、関係機関・住民などと協力して、収集・整備・保存・公開（デジタル化を含む）していく枠組みづくりを進めることも、長期的な課題として検討されてよいと思われる。市民生活を支える行政にとっても情報は重要である。図書館がある意味で主体的に取り組むべき領域であり、市川では、市内関係機関や市他部署などとの継続的な連携のもと、着実に成果が出ている点は大いに評価されるべきである。引き続き、取り組みが進められることを期待したい。

総 評

・千葉県内でトップクラス、全国的にも上位の水準にある図書館だけに、A評価はきわめて妥当だと理解しています。すでに高いレベルに到達しているため、現状の維持だけでも相当な困難があるはずですが、改善の成果が毎年見られることは立派です。さらに適切な評価とするためには、利用者アンケートやマスコミの報道など、数字だけでない観点も加えて、評価の精度を高めることが望まれます。

・全国的に見ても積極的・継続的な図書館活動を展開しており、三つの柱についても成果が得られている点を大いに評価したい。図書館関係者のたゆまぬ努力に敬意を表したい。自己評価も妥当であると考えられる。贅沢な要求だと言われてしまうかもしれないが、ランガナタンがいうとおり、図書館は成長する有機体であるとするならば、現在の成果に留まることなく、常に市民のニーズを見極めながら、よりよいサービスを追求していく姿勢をさらに確固たるものにしていくことを希望したい。とはいえ、図書館関係者のみがすべてを負うわけではない。市内関係機関・市他部署はもとより、市民を含めて、利用者との「協働」（単なる協力でなく）を進めていくなかで、よりよいサービスをつくりあげていくことが、今後の方向性として重要なポイントになるであろうことを付言しておきたい。

e-モニターによるリーディングプラン

市川市立図書館運営基本計画の策定時に、市民の声を広く集め本市図書館の運営に反映していくため、ｅ-モニターによるアンケートを実施し、市民モニターが重要と考える施策について尋ねました。

7 つの施策の方向の中で、「特に重要」という回答が多かった具体的施策を、図書館運営を俯瞰的に把握することができる主要施策として位置づけ、「ｅ-モニターによるリーディングプラン」としました。

これら施策について、平成２８年度の実施結果を報告します。

市民モニターが重要として選んだ具体的施策

１つめの柱　情報拠点として市民の学びを支える図書館

施策の方向 1-(1)　様々な市民の学習要求に応えられる、蔵書の収集と維持
〇具体的施策　利用に応じた様々な形態の資料の充実

施策の方向 1-(2)　図書館機能を活用した、生涯学習機会の提供と充実
〇具体的施策　利用しやすい情報環境の整備

施策の方向 1-(3)　関連機関とのネットワークの充実と、質の高いサービスの提供
〇具体的施策　関連施設との連携による、各地域における図書館サービスの充実

２つめの柱　子どもの成長をサポートする図書館

施策の方向 2-(1)　発達に応じた豊かな読書のための環境整備
〇具体的施策　行事の実施と情報の発信

施策の方向 2-(2)　公共図書館と学校等との連携の強化
〇具体的施策　調べ学習及び読書環境向上のためのサポート

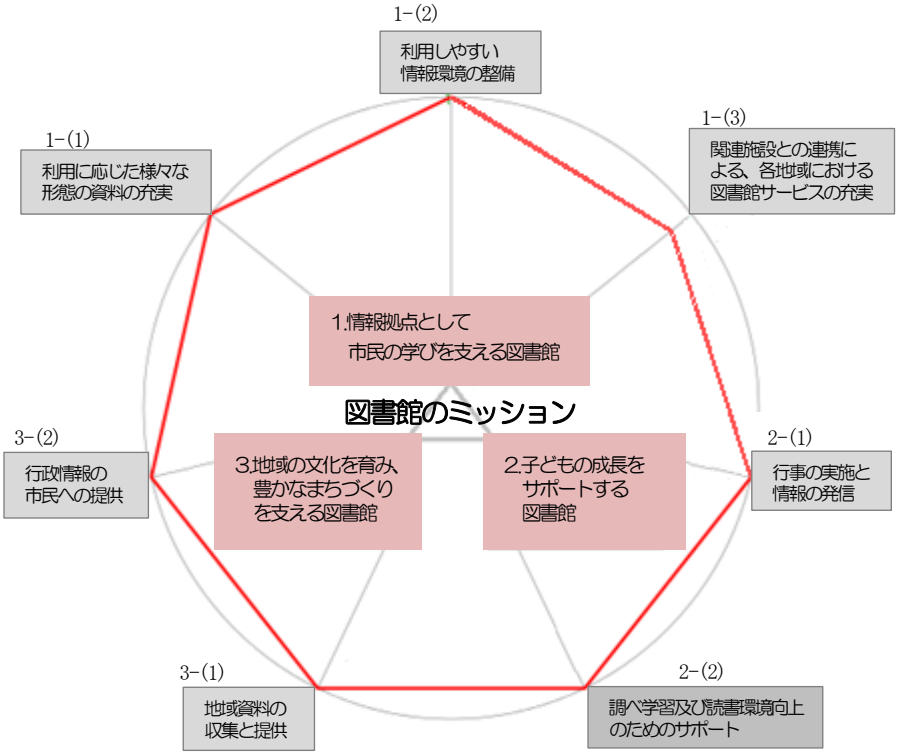
３つめの柱　地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

施策の方向 3-(1)　市川市の歴史・文化の保存と継承
〇具体的施策　地域資料の収集と提供

施策の方向 3-(2)　行政の情報拠点としての役割
〇具体的施策　行政情報の市民への提供

＜リーディングプラン　平成 28 年度結果＞

市民モニターが重要として選んだ 7 つ具体的施策のうち、6 つについては目標を達成することができました（取り組み内容については、p.1～4 参照）。

施策の方向 1-(3) の「関連施設との連携による、各地域における図書館サービスの充実」については、大野公民館図書室での図書館サービスの充実に努め、貸出の伸びも見られましたが、目標としていた利用者登録数の「前年度比増」にはわずかに届きませんでした。今後も関連施設との連携を強化し、市内各地域で図書館サービスが利用されるよう努めていきます。

今回、目標が達成できた 6 つの具体的施策についても、拡大実施に努め、サービスの充実を図ってまいります。